

薬の伝言板～喘息～



No.229 2016年12月

丸子中央病院 薬局

現在、アレルギー物質の増加、排気ガスや工場排煙などによる大気汚染、食品や住宅建材などの化学物質、長時間勤務による過労やストレスが増えたことなどで喘息患者が増えています。今回は、喘息についてお話します。

喘息(ぜんそく)とは

何らかの原因によって気管支に炎症がおこって狭くなり、そのために生じる発作のことをいいます。

喘息患者の気管支は、症状がない時も炎症が起きて敏感になっていますが、アレルギー物質などによる刺激が加わると、気道が狭くなり、痰などの分泌物が増え、喘鳴や、激しく咳き込んだりします。



正常の気管支

喘息の発作時の気管支

主な症状

- ・激しい咳
- ・呼吸困難
- ・喘鳴(ぜんめい)・・・ヒューヒューゼーゼーといった呼吸
- ・動悸・息切れ など

症状が強い時期は、横になって寝ていられず、身体を起こしていると呼吸が楽になります。(起坐呼吸)



主な原因

喘息の原因は、アレルギー性のものと、それ以外の要因に分けられます。

- ・ダニ
- ・ハウスダスト
- ・ペット
- ・花粉
- ・食物

アレルギー性のもの

- ・運動
- ・たばこ
- ・過労、ストレス
- ・風邪などの感染症
- ・大気汚染
- ・天候・気温の変化
- ・香水などの匂い

アレルギー以外の誘因

アレルギー性の喘息である場合、予防にはアレルギーの原因となりやすいものを取り除くことが有効です。

喘息症状がおこりやすいとき

喘息の発作は、夜間や早朝におこりやすいのが大きな特徴です。

- ・夜間～早朝にかけて
- ・季節の変わり目など、気温差がはげしいとき
- ・天気がよくないとき、変わりやすいとき
- ・疲れているとき
- ・風邪をひいたとき
- ・発作を引き起こす刺激に触れたとき(タバコの煙、線香の煙、強い臭いなど)



薬物治療

喘息の治療薬は次の2種類に分けられます。

- ・発作治療薬: おこってしまった発作を止める(発作がおこったときだけ使う)
- ・長期管理薬(コントローラー): 発作がおこらないように毎日継続する



	薬剤	形状	作用
発作治療薬	メプチンエア	吸入薬	エアゾル製剤で発作を止めます。
長期管理薬	ツロブテロールテープ	貼り薬	気管支を広げ呼吸を楽にする β_2 刺激薬の貼り薬です。
	フルタイド など	吸入薬	気管支の炎症を抑えるステロイドの吸入薬です。飲み薬に比べ、全身の副作用が少ないことが特徴です。
	アドエア シムビコート など	吸入薬	β_2 刺激薬と、吸入ステロイドの合剤です。
	スピリーバ	吸入薬	気管支を広げ呼吸を楽にする抗コリン薬の吸入薬です。
	テオフィリン	のみ薬	気管支を広げる作用のある薬で、昔から使われています。

喘息治療の目標は、「発作がおこらないようになり、健康な人と変わらない生活を送ること」です。
そのためにも長期管理薬は症状が無くても使用する薬ですので毎日きちんとお薬を使いましょう。

